

# 第8回 湘南国際村インカレ国際セミナー

# 東アジア east asia 共通の家

The 8th Shonan Village Inter-college International Seminar  
An East Asian Common House: Japan and Asia

2010年12月10日金~12月12日日

申込締切／2010年11月25日木 場所／湘南国際村センター

Date : December 10-12, 2010 Application Due : November 25, 2010  
Venue : Shonan Village Center

## 基調講演

## Keynote Lecture

榎原 英資氏（青山学院大学教授）

Eisuke Sakakibara (Professor, Aoyama Gakuin University)



プロフィール／1941年生まれ。 東京大学経済学部卒、1965年に大蔵省に入省。ミシガン大学に留学し、経済学博士号取得。1994年に財政金融研究所所長、1995年に国際金融局長を経て1997年に財務官に就任。1999年に大蔵省退官、慶應義塾大学教授、早稲田大学教授を経て、2010年4月から青山学院大学教授。近著に「フレンチ・パラドックス」(文藝春秋社)、「ドル漂流」「龍馬伝説の虚実」(朝日新聞出版)など。

PROFILE/Eisuke Sakakibara has been a Professor of Aoyama Gakuin University since April 2010. From 1997-1999, he was Japan's vice Minister of Finance and International Affairs. Prior to that, he held many government positions including that of Director General of the International Finance Bureau; President of the Institute of Fiscal and Monetary Policy; Director of the Treasury Division, Financial Bureau, Ministry of Finance and Special Advisor to the President, Japan Center for International Finance. He has also served as Associate Professor of Economics, Institute for Policy Science, at Saitama University and Visiting Associate Professor of Economics, Economics Department, at Harvard University. Mr. Sakakibara is the recipient of numerous awards, including the Taylor's Award from the University of Michigan and the Bintang Mahaputra Utama from the Government of The Republic of Indonesia. He holds a BA in Economics from Tokyo University and a PhD in Economics from the University of Michigan.

テーマ「世界経済の構造変化」

"Structural Change in the World Economy"

## セミナープログラム

## Seminar Program

12月10日(金)

- 16:00 受付開始
- 17:30 共通セッションI
- 18:00 夕食
- 19:00 開会式
- 19:15 基調講演（共通セッションII）
- 20:30 分科会説明
- 21:00 分科会演習I (22:00まで)

12月11日(土)

- 9:00 分科会演習II
- 12:00 昼食
- 13:00 分科会演習III
- 14:30 休憩
- 15:00 分科会演習IV
- 18:00 夕食
- 19:00 分科会演習V (22:00まで)

12月12日(日)

- 9:00 分科会演習VI
- 12:00 昼食
- 13:00 共通セッションIII(分科会発表)
- 15:30 閉会式



## 趣意書 Aim of the Seminar

湘南国際村インカレ国際セミナー組織委員会委員長

白鳥 浩 (法政大学教授)

東アジアのほぼ全域を巻き込んだ太平洋戦争が終了して、本年で65年を迎えた。アジアにおける最初の近代的な国民国家である日本の欧米列強に肩を並べようとするこのこころみは、二つの原子力爆弾が投下された後についえることとなった。世界大では第二次世界大戦と呼ばれる一連の戦争は、東アジアにおいては太平洋という海洋を中心とした戦争という局面を持ちながら展開され、核兵器の時代という新たな時代の到来を告げて終わったのであった。核兵器が実戦に使用されたのは、これまでの歴史のなかでは、この太平洋戦争のみである。これら世界大の視点における第二次世界大戦とアジアの視点からの太平洋戦争は、アジアの人民の心に、癒しがたい深い傷とつらい記憶を残すこととなった。

しかしながら、太平洋戦争の終結は、核兵器の時代の到来を告げたのみならず、アジアにおける国家形成と国民形成という植民地支配からの脱却という新しい時代への道を切り開くものでもあった。アジアにおける新しい国民国家の相次ぐ誕生と、民族自決の原則に基づくそれぞれの人民による統治は、アジアの人民が待ち望んでいたものであった。またそれは、国家形成の大義のために、各地の国家形成者が、激しいナショナリズムの感情を利用することの正当化を許容するものでもあった。こうしたナショナリズムを強く利用した国家形成と国民形成は、隣国など外敵を作り出すことによって国家統一を試みるという傾向があり、それがまたアジアの国際関係を難しくしてきたのである。

アジアにおける隣国と未来の良い関係を構築するためには、アジア地域における現代の国際関係を理解することが必須である。そのためには、日本とアジアの関係を検討することは、避けて通ることができないことといえよう。果たして日本はアジアの一員なのだろうか、それとも日本はアジアとは一線を画した存在なのだろうか。この疑問は「脱亜入欧」を福沢諭吉が掲げた明治期以来、常についてまわる議論である。そうした疑惑を持ちながら、東アジアにおける国際関係が深化し、「東アジア共通の家」を目指すとするなら、日本はどういった役割を果たすことができるのだろうか。

この湘南国際村インカレ国際セミナー「東アジア共通の家—日本とアジア」においては、将来、アジアで指導的役割を果たす大学生、大学院生の諸君と、日本とアジアの関係について、歴史、地政学、社会、経済、そして民主主義などの多様な側面から、各領域の専門家と共に詳細に検討することを目的とする。

It has been 65 years since the war in the Pacific ended. The actions of Japan, the first modern nation state in Asia, collapsed after the country suffered the effects of two atomic bombs.

World War II and the Pacific War left scars and sorrowful memories in Asian peoples' minds. However, the end of the war not only marked the beginning of the age of nuclear weapons, but it paved the way to the formation of states and the building of nations in Asia. It unleashed strong nationalistic feelings that were used by the nation builders in each society.

To construct future good relations with neighboring countries in Asia, it is imperative to understand the contemporary international relations in the Asian region. For that purpose, it is inevitable that we review the relationship between Japan and Asia.

We now have the opportunity to scrutinize this relationship from historical, geopolitical, social, economic and democratic aspects, through discussions with the future leaders of Asia.

## 組織委員 Program Committee Members

大芝 亮	一橋大学 教授	Ryo Oshiba	Professor, Hitotsubashi University
押村 高	青山学院大学 教授	Takashi Oshimura	Professor, Aoyama Gakuin University
白鳥 浩	法政大学 教授 (委員長)	Hiroshi Shiratori	Professor, Hosei University (Chair)
滝田 賢治	中央大学 法学部 教授	Kenji Takita	Professor, Chuo University
武藤 誠	(財)かながわ国際交流財団 常務理事	Makoto Mutoh	Managing Director, Kanagawa International Foundation (敬称略、五十音順／ in order of the Japanese syllabary)

## 講師 Lecturers

梶島 洋美	横浜国立大学 准教授	Hiromi Kabashima	Associate Professor, Yokohama National University
黒川 修司	東京女子大学 教授	Shuji Kurokawa	Professor, Tokyo Woman's Christian University
小久保康之	東洋英和女学院大学 教授	Yasuyuki Kokubo	Professor, Toyo Eiwa University
貴家 勝宏	東海大学 准教授	Katsuhiro Sasuga	Associate Professor, Tokai University
中村 虎彰	ソルブリッジ国際大学 又松大学校 専任講師	Toraaki Nakamura	Full-time Lecturer, SolBridge International School of Business, Woosong University
羽場 久美子	青山学院大学 教授	Kumiko Haba	Professor, Aoyama Gakuin University (敬称略、五十音順／ in order of the Japanese syllabary)

## 分科会 A 民主主義とガバナンス

講師：押村高、白鳥浩

到達目標：「アジア的民主主義」とは存在するのか、またそこにおけるガバナンスのあり方とは何かを理解する。

近代の国際関係の基本的な概念である「国民国家」概念を、アジア地域が受け入れることで、アジアにおける「近代」は始まったといえよう。このアジア地域における受容は、長く続く「国民国家」形成にまつわる苦しみをアジアの人民に背負わせることとなった。結果、アジアにおいては多様な国家形成の過程をとり、多様な形態の「民主主義」を発展させることとなった。アジアのほとんどすべての国家は、自らの体制が「民主主義」であることを主張する。これらの諸国の中には、人権

の観点から、アメリカなどによって、「民主主義」ではないと評価される国家も存在する。しかしながら、しばしばこれら国家は自らの体制が独特な価値を持った「アジア的民主主義」であることを主張する。はたして「アジア的民主主義」は存在するのか、またあるとするならば、そこにおけるガバナンスのあり方とはいかなるものなのであろうか。また、「民主主義」であることは、地域の平和に貢献するという議論も存在する。参加学生の積極的な貢献を期待する。

<参考文献>

ブルース・ラセット著、鶴武彦訳『パクス・デモクラティア—冷戦後世界への原理』東京大学出版会、1996年。

岩崎育夫『アジア政治を見る眼—開発独裁から市民社会へ』中央公論新社、2001年。

恒川恵一編『民主主義アイデンティティー新興デモクラシーの形成』早稲田大学出版部、2006年。

## 分科会 B 21世紀アジアの地政学

講師：黒川修司、滝田賢治

1990年前後に冷戦が終結して約20年経つに新たな世界秩序は形成されていないが、ウェストファリア的要素とポスト・ウェストファリア的要素が混合した状況が生まれつることは明らかである。「新帝国主義の時代」の到来を思わせるアメリカやEU与中国を中心とする新興国家の間の資源獲得競争や金融的支配権をめぐる緊張の激化が見られる反面、国連に体現される国際社会におけるグローバル・ガバナンスを重視する傾向や様々な機能的分野におけるレジームが形成されてきており、国家間の協調関係が強化されてきているのも事実である。この混合した状況はアジアでも顕著であり、GDP世界第2位となりつつある中国がその経済成長力を原動力に、6者協議の主宰者となり——2度のベルリン会議を主宰したドイツ帝国を想起させるが——、有人工衛星「神舟」や衛星破壊衛星の打ち上げにも成功し、アジア地域とはFTAの締結により経済的結合を進め、資源権益を求めるアフリカへ

の浸透を加速させている。米日韓露4国は警戒心を高めているものの、経済的関係を強化させざるを得ず、ASEAN諸国も域内の統合を進めつつも中国との関係を重視しつつある。

本分科会では、以上の問題意識を前提に、①まず現在のインドも含むアジアの国際関係を経済（生産・流通・金融）、安全保障を中心に確認し、②次に米中露のこの地域に対する政策及び米中露日4国関係を検討し、③最後にASEANを含む東アジアの共存・共生の可能性を議論したい。本分科会に参加を希望する者は、下記の参考文献ばかりではなく、自主的に関連文献・論文にあたり十分予習してくること。

<参考文献>

曾村保信『地政学入門—外交戦略の政治学』中央公論新社、1984年。

防衛省防衛研究所編『東アジア戦略概観2010』ぎょうせい、2010年。

小原雅博『東アジア共同体—巨大化する中国と日本の戦略』日本経済新聞社、2005年。

## 分科会 C 金融不安と経済発展

講師：浜島洋美、貴家勝宏

本分科会は、東アジア経済のダイナミズムと金融不安の問題を検討することを目的としている。世界金融危機は、東アジア経済にも実物面と金融面の双方で影響を与えた。市場原理優先の時代から、国際金融の領域においても、究極的にはルールに基づいた制御が必要との認識を国際社会も共有し、世界経済秩序を模索する時代に入った。しかし経済発展のプロセスにおいて、どのような形態の金融市場が望ましいかは、経済発展段階や歴史的経緯との関係から、議論は尽きない。東アジア経済は、ここ30年間、貿易と投資の好循環が原動力となり目覚しい発展を遂げ、いまや世界の成長センターとして期待されている。1997年に起きたアジア通貨危機は、東アジア経済の構造的脆弱性を浮き彫りにしたが、地域における経済協力の必要性を認識させる契機となり、金融協力を始めとし、自由貿易協定の締結など東ア

ジア地域の協力関係は着実に進んでいる。しかし、東アジアは、高成長の一一方で所得格差の拡大、富の偏在や不平等化の解消には至らず、経済成長と公正の両立は依然未解決である。本分科会では、東アジア経済と通貨・金融面での地域協力の実態を再確認し、地域の政治・経済・社会的多様性に目配りをしつつ、グローバル化の中、東アジアがおかれた現状と直面する課題を理解し、向かうべき方向性を探っていきたい。

<参考文献>

平川均・小林尚朗・森元昌文編『東アジア地域協力の共同設計』明治大学軍縮平和研究所、2009年。

西澤信善・北原淳編著『東アジア経済の変容—通貨危機後10年の回顧』晃洋書房、2009年。

渡辺利夫編『アジア経済読本・第4版』、東洋経済新報社、2009年。

必要とされている。地方自治体やNGO/NPOなど、地域のさまざまなアクターが果たす役割と課題について、議論したい。

<参考文献>

岩崎育夫『アジア政治を見る眼—開発独裁から市民社会へ』中央公論新社、2001年。

馬橋憲男・高柳彰夫『グローバル問題とNGO・市民社会』明石書店、2007年。

省や大学からの「日中韓100万人留学交流計画」等も俎上に上っている。

東アジア共同体における日中韓・ASEANによるコア形成について考えるとき、日中韓の若者文化の相互依存や歴史認識の再構築の問題を、避けて通ることは出来ない。

この分科会では、東アジアのソフト・パワーの意義と今後の発展方向について、若者からの提言を含め、自由で闊達な討論を積み重ね、東アジア共同体形成のボトムアップを図りたい。

<参考文献>

ジョセフ・S・ナイ著、山岡洋一訳『ソフト・パワー—21世紀国際政治を制する見えざる力』日本経済新聞社、2004年。

王敏『日本と中国—相互誤解の構造』中央公論新社、2008年。

小倉紀蔵、『歴史認識を乗り越える一日中韓の対話を阻むものは何か』講談社、2005年。

## 分科会 D アジアの市民社会と環境

講師：大芝亮、中村虎彰

東アジア共同体を考えるにあたり、国家間の協調だけでなく、地方自治体や市民レベルの交流も重要である。特に、環境問題については、グローバルあるいはリージョナルな視点から考察するとともに、ローカルな視点から考え、取り組むことも

## 分科会 E 東アジアのソフト・パワー —歴史認識と文化

講師：小久保康之、羽場久美子

東アジアの共同にとって欠かすことができないにもかかわらず、これまであまり論じられてこなかった重要な問題が、政治経済の基底をなすソフト・パワーの問題であろう。

拡大し深まる経済の相互依存に加え、観光・映画・音楽・芸能・マンガなどのソフト・パワーに見られる若者文化の相互依存・交流は著しいものがある。

王教授は生活文化共同体として、漢字文化や若者文化に見られるソフト・パワーからの東アジア共同体を提唱している。そこに立ちはだかっているのが「歴史認識」の相違であるが、これらについても、近年、アジアの歴史研究者らによる地道で継続的な話し合いが続けられている。さらに「独仏和解」に倣って、近年は文部科学

## 参加申込方法 Application Information

**参加資格：**東アジアの政治や文化、開発などに興味を持つ大学生、大学院生および若手社会人。  
専門分野は問いません。使用言語は日本語または英語です。

**Qualification :** Undergraduate/graduate university students of any specialized field, or young workers interested in East Asian politics, culture and development. This seminar will be conducted in Japanese or English.

**期間：**2010年12月10日(金)～12日(日)

**Date :** December 10 Fri. -12 Sun., 2010

**場所：**湘南国際村センター

**Venue :** Shonan Village Center

**定員：**100名

**Number to be admitted :** 100

**費用：**23,000円  
(留学生10,000円 ※但し、選考があります。)

**Fee :** 23,000 yen (10,000 yen for foreign students. Note that there will be a selection process.)

**宿泊：**同性での複数人部屋 (2～6名)

**Accommodation :** Room sharing with 2 to 6 people of the same sex.

**応募方法：**所定の申込用紙に必要事項を記載の上、FAX、郵送もしくはE-mailにて11月25日(木)必着で、お申し込みください。  
申込用紙は、<http://www.k-i-a.or.jp/shonan/work/in-colle/>から、ダウンロードできます。

**How to apply :** Please fill in the application form and send it to KIF by post, FAX or E-mail, no later than November 25. The application form can be downloaded at: <http://www.k-i-a.or.jp/shonan/work/in-colle/>.

**合格通知：**応募者はセミナー組織委員によって審査され、合格者には11月29日(月)までに「参加証」と「お振込み先銀行口座」をE-mailにてお送りいたします。E-mailを受け取られましたら12月2日(木)までに参加費をお支払いください。

**Notification of admittance :** Applications will be reviewed by the Program Committee. Selected participants will be informed by E-mail by November 29. Please make payment of your participation fee by bank transfer by December 2.

### お問合せ／お申込み：

(財)かながわ国際交流財団  
湘南国際村学術研究センター (今井、佐々木)  
〒240-0198 神奈川県三浦郡葉山町上山口1560-39  
湘南国際村センター内  
TEL 046-855-1822 FAX 046-858-1210  
E-mail [incolle2010@kif.ac](mailto:incolle2010@kif.ac)

### Secretariat :

Kanagawa International Foundation (KIF)  
(Program Officers: Atsuo Imai or Akie Sasaki)  
1560-39 Kamiyamaguchi Hayama, Kanagawa 240-0198  
TEL 046-855-1822 FAX 046-858-1210  
E-mail [incolle2010@kif.ac](mailto:incolle2010@kif.ac)  
(Should you have any questions, please contact above.)

## 会場のご案内 Access

### バスをご利用の場合

JR逗子駅前1番乗り場より16系統、26系統「湘南国際村」行きバスに乗車、「湘南国際村センター」下車。(所要時間約30分、料金340円)  
※このバスは2～3分後に京急新逗子駅前1番乗り場に停車します。

京急汐入駅前2番乗り場より16系統「湘南国際村」行きバスに乗車、「湘南国際村センター」下車。(所要時間約30分、料金370円)

### タクシーをご利用の場合

JR逗子駅前タクシー乗り場より「湘南国際村センター」まで約15分。  
料金約2800円。



TO: FAX 046-858-1210 e-mail [incolle2010@kif.ac](mailto:incolle2010@kif.ac)

POST T 240-0198 神奈川県三浦郡葉山町上山口 1560-39 湘南国際村センター内 (財)かながわ国際交流財団  
1560-39 Kamiyamaguchi Hayama , Kanagawa 240-0198 Kanagawa International Foundation

## 第8回湘南国際村インカレ国際セミナー参加申込書

The 8<sup>th</sup> Shonan Village Inter-college International Seminar Application Form

姓: <u>Family Name:</u>	名: <u>First Name:</u>	
現住所 Address: <u>〒</u>		
自宅の電話番号 Home Phone:	携帯電話 Mobile Phone:	
Fax:	E-mail(PC):	
国籍 Nationality:	性別 Gender ( )男 M ( )女 F 年齢 Age:	
<p><u>留学生のみ This space is only for foreign students.</u>  <u>留学生枠での参加(13,000 円の補助)を希望する。</u>          Foreign students may be eligible for 13,000 yen waiver of the participation fee. Do you request this fee waiver ?  <u>希望する Yes ( ) 希望しない No ( )</u></p>		
<p><u>大学・大学院名 Present University/Graduate School Name:</u>          ※大学・大学院に所属していなければ、それに代わる職業又は所属をお書きください。If you are not a student, please indicate your profession or institutional affiliation.</p>		
学部 Department:	専攻 Major:	学年 Year:
<p><u>参加希望分科会 Preferred Subcommittee:</u> ※第 4 希望までお書きください。詳細は、募集要項をご参考ください。          Please indicate up to your the fourth choice. Please refer to the pamphlet for details.</p>		
第 1 希望 first choice: 分科会( ) 第 3 希望 third choice: 分科会( )	第 2 希望 second choice: 分科会( ) 第 4 希望 fourth choice: 分科会( )	
<p><u>参加動機 Brief Essay (Please write down your reasons for applying.):</u></p> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>		

申込締切：2010年11月25日（木）  
Deadline: November 25, 2010